

令和7年度 正氣小学校 学校評価（関係者評価）

1 学校教育目標		豊かな心を持ち、進んで学び、たくましく生きる児童の育成											
2 自己評価結果													
(1) 「割合」の欄は、「そう思う」「ややそう思う」を合わせた肯定的な回答の割合 (2) 「取組状況の自安」 80%以上:A 60%~80%未満:B 60%未満:C													
No.	項目	評価者	割合	取組状況	改善の方策	学校関係者評価							
創意ある学校経営	地域団体や企業、SCSやボランティアとの連携を図っている。 情報発信(お便りやメール配信)に努めている。	児童	80%	B	R6に比べて地域との連携や情報発信への評価が児童・保護者・教職員のいずれにおいても上向いた一方、三者間の認識差を縮めるため、活動の見える化と分かりやすい情報提供が求められる。	A	A						
		保護者	90%	A									
		教職員	100%	A									
委学校員運の営想意識談見会	【学校経営・情報発信について】 ・学校評価の改善が見られる点は、今年度の学校運営の成果であり、深く感謝したい。今後も継続した取り組みを期待する。 ・学校側が情報発信に真摯に取り組んでいる姿勢が伺える。特に学校だよりは内容が充実しており、非常に読みやすい。 ・メールによる情報発信は、後から内容を見返すことができるため、有効に活用されている。今後もこれまで同様、情報の「発信」と「収集」の両面を重視した運用を継続していただきたい。 ・地域住民に向けて回覧板で情報を発信している点に、学校側の努力を感じる。今後、回覧板に工夫を凝らすことで、さらなる地域交流の活性化につながることを期待している。 【保護者・地域との連携について】 ・保護者からの評価も良好であり、着実に成果が表れている。今後、学校と保護者が直接接触れ合う接点がさらに増えいくことを願っている。 ・行事等に協力する保護者が増えていることは喜ばしい。保護者が楽しみながら参加できる機会が、今後さらに広がっていくことを願っている。 ・PTA組織の有無にかかわらず、保護者や地域の協力体制が整えば、質の高い学校運営が可能であることを実感した。 ・地域のボランティア活動については、その内容をより「見える化」することで、さらなる理解と協力が得られるのではないか。	児童	89%	A									
		保護者	98%	A									
		教職員	100%	A									
人生を主体的に切り拓くための学びの確立	ICT機器を活用した授業や家庭学習を行っている。	児童	77%	B	R6と比較すると、R7では基礎学力の定着支援や思考・表現活動、キャリアパスポートを活用したキャリア教育、家庭学習支援の面で児童・保護者・教職員の評価が総じて向上し、授業改善の成果が外部からも認められ始めている。 一方、ICT活用については教職員の手応えが高まった反面、児童・保護者の評価はR6より低下しており、活用場面の意義や効果が十分に伝わっていない可能性がある。 また異文化理解やコミュニケーション能力の育成に関する項目では、児童・保護者の実感がまだ高まっていないが、本年度よりJRCに加入しており、2月にはスリランカの方を招いて4~6年生を対象とした授業を計画している。こうした取組を通して、活動内容や成果を児童・家庭へ可視化し、学びの意義を共有することで三者の認識差は縮まっていくと考えられる。	A	A						
		保護者	63%	B									
		教職員	94%	A									
	子供が基礎学力を身に付けられるよう支援している。	児童	90%	A									
		保護者	81%	A									
		教職員	100%	A									
	授業で、子供は自分の考えを発表し、友達の考え方と意見交換できるよう指導している。	児童	89%	A									
		保護者	89%	A									
		教職員	94%	A									
	校外学習やキャリアパスポート、「夢の教室」などを教育活動の中で効果的に活用できている。	児童	86%	A									
保護者		91%	A										
教職員		100%	A										
外国語科や外国語活動を通して、自国と異国の文化への理解を深め、コミュニケーション能力を養う指導をしている。	児童	73%	B										
	保護者	68%	B										
	教職員	100%	A										
家庭学習や読書習慣の定着を支援している。	児童	83%	A										
	保護者	74%	B										
	教職員	94%	A										
委学校員運の営想意識談見会	【学習指導・ICTの活用・外国語活動等について】 ・1人一台端末（ICT）の活用について、家庭持ち出しの際に、翌日の授業でゲーム感覚の小テストを行うなどの工夫があれば、児童の家庭学習への意欲がより高まるのではないか。 ・学力向上に向けた諸施策への取り組みを評価したい。特に担任教師による外国語指導については、現場の負担も大きいと推察されるため、行政とのさらなる連携による環境改善を強く望む。 ・外部講師（ネイティブスピーカー等）を招いた異文化コミュニケーション教育は、非常に有意義であり、今後も継続していただきたい。 ・ICT活用や外国語教育の充実は、本校のみならず東金市全体の課題でもある。教育の質を担保するためにも、教育予算の拡充が必要であると感じている。 【児童の生活習慣・家庭との連携について】 ・読書習慣の定着は、情報端末の普及等により家庭でも課題となっている。学校と家庭が連携し、根気強く取り組んでいく必要がある。 ・教職員の定員が限られる中、各授業において様々な工夫を凝らしている姿勢に敬意を表したい。 ・児童への指導のみならず、家庭における教育環境を整えるための「保護者への支援や情報提供」についても、学校の役割として期待したい。	児童	80%	A									
		保護者	75%	B									
		教職員	95%	A									
		児童	85%	A									
		保護者	78%	B									
		教職員	92%	A									
		児童	82%	A									
		保護者	76%	B									
		教職員	93%	A									
		児童	87%	A									

心道 の徳 教性 育を の高 推め 進る	道徳教育やいじめゼロ宣言など、いじめ防止のための取り組みを行っている。 子供の悩みや問題に丁寧に対応している。	児童	86%	A	R6と比べてR7では、子どもの悩みや問題への対応に関して、教職員からは高い評価が得られているが、保護者の評価は60%台にとどまっている。今後は、対応の内容や支援の意図をより丁寧に共有し、家庭との相互理解を深めていく必要がある。	A	A
		保護者	69%	B			
委学 校員運 の營 懇意談 見会	【心の教育・いじめ防止について】 <ul style="list-style-type: none">道徳教育やいじめ防止策に関する保護者からの評価が、教職員側の自己評価と比較して低い点が懸念される。学校での具体的な取り組みや指導内容について、学校だより等を通じて繰り返し発信し、保護者の理解と安心を深めていただきたい。不登校の事例において、適切な介入や支援が問題解決に向けた成果につながっていることを高く評価したい。今後も一人ひとりに寄り添った対応を継続していただきたい。 【学校の風土・信頼関係について】 <ul style="list-style-type: none">日々の教育活動から、教職員の情熱や児童への思いが伝わってくる、非常に温かい校風であると感じている。学校の教育方針や日々の取り組みがより確実に家庭に届くよう工夫し、学校と保護者の間の相互理解をさらに深めていくことが、より良い学校運営の鍵となる。	児童	85%	A	R6と比べてR7では、児童の評価は概ね安定しているものの、相対的に低く、生活面の指導が日常化し、意図や成果が実感されにくい可能性がある。今後は、活動の意味や成果の見える化を工夫し、家庭との連携を通して、生活習慣と安全意識の定着をさらに図っていただきたい。	A	A
		保護者	64%	B			
委学 校員運 の營 懇意談 見会	体育授業、マラソン大会、外遊びを通じて、子供の体力を向上させている。 食育(栄養指導や給食)を通じて、子供の良い食習慣を育んでいる。 衛生指導(うがい、手洗い、歯磨きなど)を適切に行っている。 地震や火事、津波などのなどの災害に備えて、避難訓練や引き渡し訓練を行っている。	児童	87%	A	R6と比べてR7では、体育や外遊びによる体力づくり、給食・衛生指導、安全指導など、生活・健康・安全に関わる項目で、保護者・教職員の評価が向上している。特に給食や衛生指導については、栄養バランスや生活習慣に関する継続的な取組が、家庭に安心感として受け止められている。一方、児童の評価は概ね安定しているものの、相対的に低く、生活面の指導が日常化し、意図や成果が実感されにくい可能性がある。今後は、活動の意味や成果の見える化を工夫し、家庭との連携を通して、生活習慣と安全意識の定着をさらに図っていただきたい。	A	A
		保護者	85%	A			
委学 校員運 の營 懇意談 見会	【安全管理・防災教育について】 <ul style="list-style-type: none">多様な場面を想定した避難訓練が実施されており、こうした実践的な積み重ねが、いざという時の児童の心のゆとりと的確な行動につながるものと評価している。今後も継続して質の高い訓練を期待したい。 【生活習慣・家庭との連携について】 <ul style="list-style-type: none">児童の健全な育成には家庭教育の協力が不可欠である。基本的な生活習慣の定着に向け、学校行事や学校だより等を通じて、家庭への啓発や指導の充実を引き続き図っていただきたい。 【保健衛生・児童の自己評価について】 <ul style="list-style-type: none">衛生指導に関して、児童自身の評価が他項目に比べて低くなっている点が気掛かりである。児童が自身の生活習慣をどのように捉えているのか、その実態を分析し、児童の意識向上につながる働きかけを検討していただきたい。	児童	100%	A	R7では特別な支援を必要とする児童への対応がR6より評価され、支援の適切さや体制の充実がうかがえる。 引き続き個別のニーズに応じた柔軟な支援を進めたい。	A	A
		保護者	93%	A			
委学 校員運 の營 懇意談 見会	特別な支援が必要な子供に対して、適切な対応をしている。	児童	86%	A	R7では特別な支援を必要とする児童への対応がR6より評価され、支援の適切さや体制の充実がうかがえる。 引き続き個別のニーズに応じた柔軟な支援を進めたい。	A	A
		保護者	79%	B			
委学 校員運 の營 懇意談 見会	【児童への理解と特別支援体制について】 <ul style="list-style-type: none">全ての児童を分け隔てなく、平等かつ丁寧に見守っていただいていることに深く感謝したい。こうした教職員の姿勢が、学校全体の安心感につながっている。特別支援を必要とする児童が増加傾向にある中、特定の担任のみに負担が集中することなく、組織として全教職員が情報を共有し、一丸となって対応できる体制を今後も維持・強化していただきたい。 【教職員の接し方と学校風土について】 <ul style="list-style-type: none">児童に対し、感情的にならず温かく接している教職員の姿は、保護者にとって大きな安心材料となっている。こうした良好な関係性が、児童の健やかな成長を支える基盤であると確信している。学校の教育方針や特別な配慮を要する事項については、一部の職員にとどまることなく、全職員が共通理解を持って、足並みを揃えて教育活動を推進していただくことを期待する。	児童	90%	A			
		保護者	86%	A			
委学 校員運 の營 懇意談 見会		教職員	100%	A			